

# WCRP

World Conference of Religions for Peace Japan

**10**  
2022  
October  
No. 516



都内のホテルで開かれた「諸宗教平和円卓会議」

こころの扉—「平和な世界について考える」弘中貴之 .....	2
第41回理事会／新理事長に戸松義晴理事が就任 .....	3
女性部会40周年記念式典・パネルトーク .....	4～5
『「戦争を超え、和解へ」諸宗教平和円卓会議』を開催 .....	6～7
新理事長紹介 .....	8
今月のWCRP新熟語、WCRPの活動 .....	8

## 「平和な世界について考える」

平和は、外的には、この世界からあらゆる争いがなくなり、社会の種々の問題が解消され、すべての人びとが安穩に生きていくことのできる社会のことであり、また内的には、生老病死の苦悩や不安を互いに支え合い、一人ひとりが安心して生きていける状況のことです。こうした平和理解は、宗教者だけでなく、人類全体で共有するものでしょう。

仏教では、平和実現の方法について、人間の根源的な

WCRP 日本委員 会事派務  
理 浄 副 土 真 宗 本 願 寺  
弘 中 貴 之



弘中貴之

在り方からの平和づくりを示しています。仏教は内面の問題を重要視する宗教です。自己の心の根底に潜む煩悩や愚かさが自覚され、各人がそれを克服していこうとすることが、一人ひとりの幸せを実現するとともに、社会の安穩を生むというのが、仏教の考える平和と言えます。ただし、個人の内面に向かうといっても、他者への想いを軽視するわけではありません。釈尊は自己の解脱を実現した後、「一切衆生は安穩であれ、幸せであれ」と願

って説法を開始されました。また、大乘仏教では、他者と共に生きることを宗教的な目覚めの内容とし、利他の精神、大慈大悲の心で「一切衆生」の幸せを願って生きる菩薩道を説いています。

一方で、現代の平和構築においては、内面からの方法にとどまらず、多様な方法が考えられており、その中には、軍事力の均衡によるものや、平和維持のための軍事活動も含まれます。現実には争いのない状態を作り出し、維持していくことは重要ですし、そのためには現実的な様々な活動が必要です。しかし、仏教は一貫して「殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。また他の人々が殺害するのを容認してはならぬ」と不殺生を説きます。また、仏典中の「律」においては出家者に対し、軍隊に近づいてはいけない、武器を持つ者に法を説かないといった記述があり、武力を否定する立場を明確に見ることができません。「律」は出家者を対象とした決まりであり、すぐさますべての者に適用できるかという課題は残りますが、『仏説無量寿経』の「仏が歩み行かれるところは、国も町も村も、その教えに導かれたいところは無い。そのため世の中は平和に治まり（中略）武器をとって争うこともなくなる（兵戈無用）」という世界が、仏教における平和の理想の姿であると言えるのではないのでしょうか。

この現実社会は争いと苦に満ち満ちています。しかし、生きとし生けるものがすべて緑起していることを見つめていると、現実社会でどう生きていくべきかが、おのずから問われてくると思います。

## 第41回理事会

第41回理事会が9月13日、立正佼成会京都教会（京都市）で開催された（新型コロナウイルス感染症防止のため、オンライン併用）。理事21人が出席し、「ウクライナ情勢への対応」「ミャンマー支援」「新春学習会」「笹の墓標展示館」東京巡回展後援依頼」「第25回評議員会開催について」を審議し、すべて可決された。

「ウクライナ情勢への対応」では、WCRP日本委員会が8月31日まで呼びかけた「ウクライナ緊急人道支援募金」に、総額7千19万169円の浄財が寄せられ、さらに7月15日から同日本委員会がポーランドに派遣しているウクライナ難民支援ボランティアの詳細が報告された。

また、WCRP国際委員会との共催で9月20日から24日にかけて東京都内で開催す



理事会の様子

る『戦争を超える、和解へ』諸宗教平和円卓会議」について説明があった。同会議は、戦争・暴力下にある国々の宗教指導者らが東京に集い、紛争後の社会に必

要とされる和解や社会的結束の再構築をめざすために、これまでの実践的な経験や活動を共有することを目的としている。紛争下にある宗教者が安心して対話に参加できるように多くのセッションが非公開で行われることが確認された。

「ミャンマー支援」では、WCRPミャンマー委員会が行う人道支援、ヘルスケアサポートについて報告があった。2021年2月のミャンマーでの軍事クーデター以降、新型コロナウイルス感染症の流行も相まって多くの市民が困難な状況に陥っており、とくに少数民族の村は深刻な影響を受けている。ミャンマー委員会は、ラカイン州、カチン州、バゴ州、シャン州、ヤンゴン州、マンダレー地域、エーヤワディ地域で支援物資を配布し、オンライン上では心理社会的トレーニングを開講している。物資支援と共に、紛争下での心理的ケアも行っていることが紹介された。

「新春学習会」では、ウクライナ難民支援ボランティア派遣や諸宗教平和円卓会議の成果や課題を踏まえて、宗教者による紛争和解と平和構築の役割を討議することを可決した。

また、10月に築地本願寺（東京都中央区）で開催される「笹の墓標展示館」を後援することが決定した。

報告事項では、理事長業務執行報告、2022年度年間予定、アジア宗教者平和会議、難民支援について、また各タスクフォースや常設機関の活動についての報告がなされた。

## 新理事長に戸松義晴理事が就任

同理事会の席上、任期満了に伴う理事長の改選が行われた。これまで理事長を2期4年務めた植松誠師（日本聖公会主教）から退任の意向が示され、理事の互選の結果、新理事長には、同日本委員会理事の戸松義晴師（69）＝浄土宗総合研究所副所長・浄土宗心光院住職＝が選任された。任期は2年。就任のあいさつに立った戸松新理事長は、「多くの方に喜んでいただけるような活動を願い、お役を務めさせて頂きたい」と抱負を述べた。

また、本理事会で退任した植松誠理事長が「WCRPでの活動を通して、どのような宗教も平和を求めて、平和に向かって共に歩み続けることができる、それが使命なのだと感じた。WCRPに参加してから16年間、多くのことを学ばせていただき、人生の中で祝福された時間だった」と感謝の言葉を述べた。



植松理事長（左）と戸松新理事長（右）

## 女性部会40周年記念式典・

### パネルトーク

『ACTION WITH ALL BEINGS』をテーマに掲げた女性部会の発足40周年記念式典およびパネルトークが9月10日、東京都渋谷区のフォレストテラス明治神宮で開催された。これに女性部会会員や宗教者など約100人（オンライン視聴者含む）が参加した。



明治神宮参道



森脇部会長

第一部の式典では、はじめに主催者を代表して森脇友紀子女性部会部会長（カトリック東京大司教区アレリヤ会会長）があいさつ。「人間はだれ一人として意味なくして生まれた人はいない。神から与えられ

た命は、互いに人と人が助けるものとして創造されたと記されている。すべての人間が人間として、その人らしく生きることのできる社会を（私たちは）目指している」と、記念式典のテーマの意味について言及した。

次に、「40年の歩み」の映像が流れ、カンボジアやミャンマーで、子どもたちのために学校を建設したり、絵本を送ったりした運動などを振り返った。また、東日本大震災で被災した障がい児者をもつ母親たちと交流を重ねながら発刊した『災害時に備えて——発達障がい児者受け入れのてびき』の製作過程などが紹介された。

続いて、植松誠WCRP日本委員会理事（日本聖公会主教）、アツザ・カラムWCRP/RFP国際委員会事務総長、障がい児者の親の会「本吉絆つながりたい」の小野寺明美事務局長が祝辞を述べ、泉田佳子前部会長（芳澍女学院情報国際専門学校名

誉校長）のメッセージが代読された。

この中で植松理事長は、「2018年にドイツで開かれた第10回WCRP世界大会では、初めて女性事務総長を選出し、また、これまで女性の地位が低いとされてきた地域での女性たちの目覚ましい活躍が報告された。WCRP日本委員会の女性部会でも、災害時における発達障がい児者のケアなど、生命を慈しむ宗教者の視点から取り組んでこられたことに深い感動を覚えるとともに、女性宗教者たちの世界平和への使命と役割の大きさを感ずる」と語った。

小野寺氏はまず、東日本大震災の被災地・宮城県気仙沼市本吉町で、女性部会が犠牲者に祈りを捧げてくれたことへの謝意を表わした。そして、障がいを持つ子どもたちを前に「なぜ生き残ったのか」と非難され、傷心しきっていたときに、温かい言葉をかけて寄り添ってくれたエピソードを披露。「笑顔を失った子どもたちの支えとなってくれたことは、私たちの心に深く刻まれている」と、あらためて感謝の言葉を述べた。

第二部ではパネルトークが行われた。

モデレーター…松井ケティ女性部会委員（清泉女子大学教授）

パネリスト…稲葉奈々子氏（上智大学総合グローバル学部教授）



パネルトークの登壇者。左から松井委員、稲葉氏、柴谷師

ドウ・イン・イン・モウ氏 (WCRP/RFPミャンマー委員会事務局長) ※オンライン参加  
 柴谷宗叔師 (性善寺〈大徳山 浄峰寺〉住職)

稲葉氏は、『ジェンダーと人権——「日本に存在しないはず」とされる女性たちの声』と題し、日本に移住している外国籍女性の現状について詳細を語った。  
 まず、日本では憲法による基本的人権の

保障は、「外国人在留制度の枠内」で与えられているに過ぎないと指摘。永住の在留資格を得るためには「公共の負担」となっていないことが条件にあるため、生活保護を受給する資格があっても申請しない人が多いという。さらに、在留資格者は労働力としてしか見なされておらず、失業したら路上生活を余儀なくされているのが現状だと語った。

また、外国籍の女性は家庭で暴力を受けていても、助けを求めることが難しいという切実な状況に置かれている実例を挙げ、「暴力的な家族関係のほうに安全に思えるほど、日本社会は外国人女性にとって冷たく、安心できない。女性がコミュニティーを離れて生きていける環境が日本には存在していない」としたうえで、宗教者たちに、「女性が独立して生きていけるよう支援してほしい」と訴えた。

モウ氏は、世界中の女性が「性」「身体」「心理」「経済」「文化・伝統」「インターネット」による暴力の被害に遭っているとして、ジェンダーの平等を実現しなければならぬと強調。また、ミャンマーでは軍事クーデターによって市民への弾圧が続いているが、宗教者たちは「正義」「平等」「愛」を掲げて平和活動を推進していくと語った。

柴谷師は、『性的マイノリティと人権』と題して、性差別の現状、真言宗の僧侶とな



質疑応答の様子

った後に性転換の手術を受けた体験、性に違和感を持つ人たちの相談サポートを寺の活動などを紹介した。

この中で柴谷師は、性的マイノリティ (LGBTなど) は日本の人口の1割はいるとし、「肌の色が違ったり、眼鏡をかけている人がいるように、LGBTも当たり前に一緒に生きていけるような気持ちを心に留めてほしい」と語った。

この後、質疑応答が行われ、閉会のあいさつを河田尚子女性部会副会長 (アル・アマーナ代表) が述べた。



河田副会長

なお、総会司会を田中佑佳子同部会事務局長 (立正佼成会) が務めた。

## 「戦争を超え、和解へ」 諸宗教平和円卓会議

### 第1回東京平和円卓会議を開催

WCRP/RfP国際委員会と同日日本委員会による「戦争を超え、和解へ」諸宗教平和円卓会議」の第1回東京平和円卓会議が9月21日から23日まで都内のホテルで開催され、国際委のアッサ・カラム事務総長をはじめ、各国の諸宗教評議会の代表者、紛争地域の宗教指導者や政府関係者、政治家ら25カ国から約110人が参加した（オンライン参加者含む）。

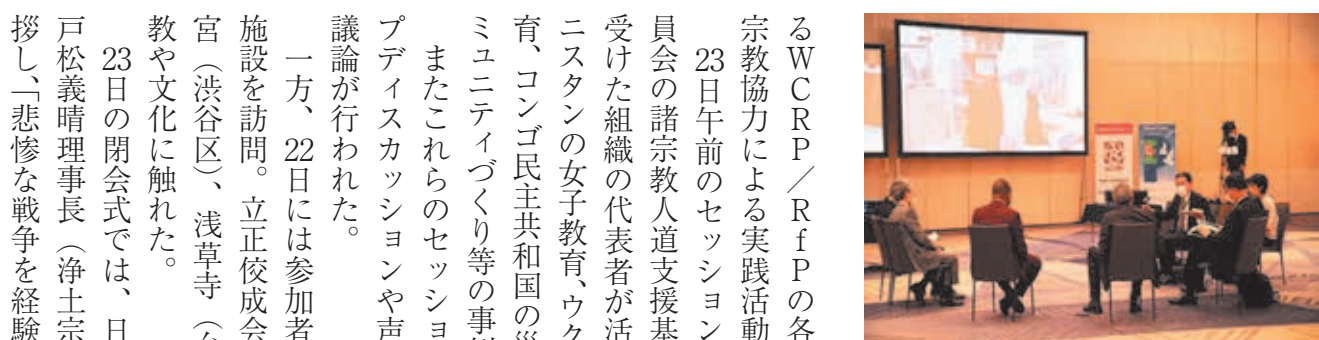
この円卓会議は、戦争・暴力下にある国々の宗教指導者らが東京に集い、紛争後における宗教の役割について、それぞれの見解と洞察を交換し、社会的結束や和解に向けた多様な努力など、実践的な経験と活動を共有するもの。



出席者はWCRP/RfP国際委員会と日本委員会の役員や地域委員会からの代表者、そしてブルキナファソ、エチオピア、

ミャンマー、ロシア、南スーダン、シリア、ウクライナの宗教者が、それぞれの宗教を代表するかたちで参加した。

21日の開会式では冒頭で、日本委の黒住宗道理事（黒住教教主）と大西英玄理事（北法相宗音羽山清水寺成就院住職）による平和の祈りが捧げられた。この後、庭野日鏡会長（立正佼成会会長）が歓迎挨拶に立ち「諸宗教間の対話・協力による平和への歩みは今や国際社会の安定を築く上で最も現実的かつ重要なテーマの一つである。私も一人の宗教者として現実の苦悩を分かち合い、問題の本質をみつめながら、世界を調和に導く一筋の光を灯していけるよう、皆さまと手を携えて前進してまいりたい」と語った。さらに、国際共同議長長のシェイク・アブドラ・ビンバイヤ師（アブダビ平和フォーラム会長）、エマニエル府主教（カルケドンのゲロン・メトロポリス管区庁）、ヴィヌ・アラム博士（シヤンティ・アシラム会長）やアッサ・カラム国際事務総長、WCRP/RfP国際活動支援議員懇談会共同代表の岡田克也氏（衆議院議員）らが挨拶した。



21日午後のセッション2では、「和解に向けた諸宗教によるアプローチ」をテーマに、アフリカ地域、アジア・太平洋地域、南アメリカ・カリブ地域、欧州地域に存在するWCRP/RfPの各地域委員会から、宗教協力による実践活動が紹介された。

23日午前のセッション3では、国際委員会からの諸宗教人道支援基金から資金援助を受けた組織の代表者が活動を報告。アフガニスタンの女子教育、ウクライナの諸宗教教育、コンゴ民主共和国の災害支援、タイのコミュニティづくり等の事例が紹介された。

またこれらのセッションのほか、グループディスカッションや声明文作成のための議論が行われた。

一方、22日には参加者全員で都内の宗教施設を訪問。立正佼成会（杉並区）、明治神宮（渋谷区）、浅草寺（台東区）で日本の宗教や文化に触れた。

23日の閉会式では、日本委を代表して、戸松義晴理事長（浄土宗心光院住職）が挨拶し、「悲惨な戦争を経験した日本の宗教者



祈りを捧げるエマニュエル  
工府主教

うえて、  
「(神仏を  
信じる)  
私たち宗  
教者にそ  
の役割が

の多くは、現在、  
世界で多発する  
紛争や暴力に対  
し、わが事とし  
て、胸を痛め、  
一人ひとりのい  
のちを守るた  
め、平和実現を  
祈り、様々な行  
動を行ってき  
た。この会合を  
受け入れさせて

与えられている」と語った。  
最後に、参加した宗教者で採択した声明  
文を読み上げ、円卓会議は終了した。  
会議後に開催された記者会見で日本委の  
篠原祥哲事務局長は、本会議がWCRP日  
本委員会の役員総意で受け入れを決定した  
こと、また日本委が実施した「ウクライナ  
緊急人道支援募金」の一部が会議費用に賄  
われたことから、日本委に関係する多くの  
人びとの願いに支えられたと振り返った。  
そして、紛争当事国の宗教者が同じテーブ  
ルにつけたこと、さらには対話継続の声明  
文を採択できたことが、この会議の大きな  
成果であったと述べた。

#### 〈声明文〉

私たち、ブルキナファソ、エチオピア、ミャン  
マー、ロシア、南スーダン、シリア、ウクライナ  
の宗教機関や団体、信仰(ユダヤ教、仏教、キリ  
スト教、そしてイスラーム)の指導者は、202  
2年9月21〜23日にここ東京で開催された第一  
回諸宗教平和円卓会議に共に集いました。

またアフガニスタン、コンゴ民主  
共和国、タイ、そしてウクライナから、諸宗教人  
道基金の支援を受けて人道活動を行ってきた指  
導者(ヒンズー教、ユダヤ教、仏教、神道、キリ  
スト教、イスラーム、シーク教)も参加しました。  
私たちが置かれている状況はそれぞれ大きく  
異なりますが、それでも信仰を持つ者として共に

集い、想像を絶する苦しみを味わっている人々の  
ために祈りを捧げることができません。

私たちは、共に円卓を囲んだ参加者、そして、  
この諸宗教平和円卓会議を開催した主催者に感  
謝を捧げます。

私たちは、諸宗教の指導者と代表者の連合体と  
して、和解に向けての諸宗教による貢献とは何か  
について、自分たち自身の理解や他の人々の理解  
からこの3日間で学んだこと、そして和解と平和  
のプロセスを前進させるために現実的に何がで  
きるかを話し合いました。

私たちはまた、言葉の力や真実が求める力に敏  
感になること、平和構築者、橋渡し役となり、戦  
争で引き裂かれたコミュニティを癒していく責  
任があることを認識しています。

私たちは対話への取り組みを続けます。なぜな  
ら、我々の信仰は、私たちに生涯にわたって正義  
を求める巡礼の旅をし、証言し、自分たちの真実  
を語るよう求めていると信じているからです。

私たちは共に、次のことを呼びかけます。  
コミットメント…癒しと赦しの必要性、およびそ  
の憲章に基づき、暴力の連鎖の再発を防ぐため、  
すべての関係者が長期的な和解のプロセスに取  
り組むこと。

継続…諸宗教平和円卓会議を継続し、紛争のすべ  
ての側から宗教指導者を招集し、知恵を共有し、  
諸宗教間の協力と平和を構築すること。

認識…私たちすべてが、人間の命の神聖さとして  
ての人々への愛を育み続けることが不可欠であ  
ると認めること。

## 新理事長紹介

WCRP日本委員会の新理事長を紹介する。

### 理事長



戸松義晴（浄土宗  
総合研究所副所  
長・浄土宗心光院  
住職）  
1953年生ま

れ。76年慶応義塾大学文学部卒業。84年大  
正大学大学院博士後期課程浄土学単位取得  
満期退学し、85年浄土宗本還寺、93年心光  
院住職就任。2010年財団法人全日本仏  
教会事務総長、18年同事務総長再任、20年  
同理事長就任とともに日本宗教連盟理事長  
に就任する。また、11年経済産業省・平成  
23年度安心と信頼のある「ライフエンディ  
ング・ステージ」の創出に向けた普及啓発  
に関する研究会・委員、22年文化庁宗教法  
人審議会委員など、国レベルの各種委員会

委員としても積極的に携わることで、社会  
における宗教の公益性に意義を与えること  
に努めてきた。

### 今月のWCRP新熟語

WCRP事務局が日常の中で感じたことを  
漢字2文字で表し新しい熟語を作ります。

#### 縁力（エンパワー）

女性部会40周年記念式典、理事長交代、諸  
宗教平和円卓会議など、人や機会の縁に結ば  
れ、多大な力が集結した9月でした。

### WCRPの活動

のちの森プロジェクト」森の整備作業  
（埼玉・所沢） \*31日も実施

18日 平和研究所第6回所員会議・研究会（東  
京・普門メディアセンター／オンライ  
ン併用）

29日 ストップ！核依存タスクフォース公開  
学習会（オンライン開催）

#### 《11月》

11日 和解の教育タスクフォースフォロー  
アップセミナー（熊本・水俣）

19日 気候危機タスクフォース「WCRPの  
のちの森プロジェクト」植樹会（埼玉・  
所沢）

22日 第4回総合企画委員会（東京・普門メ  
ディアセンター／オンライン併用）

29日 平和研究所第7回所員会議・研究会（東  
京・普門メディアセンター／オンライ  
ン併用）

30日 人身取引防止タスクフォース第3回会  
合（東京・普門メディアセンター）

#### 《10月》

2日 ウクライナ難民支援ボランティア第4  
次隊 \*16日まで

8日 青年部会「稲刈りカップ」（宮城・気仙  
沼）

17日 気候危機タスクフォース「WCRPい

掲載内容の無断転載を禁ず。